

岡田宮

— (宝永4年)1707年 貝原益軒書 —

第30号

平成12年11月吉日
発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番1号
郵便番号 806-0033
電話 (093)621-1898
FAX (093)621-5330

神宮大麻にまつわる私の思い出は、いつも暮れからお正月にかけての、かなりあわただしい時期と重なっている。

私の父は東京山の手にある代々木八幡宮という神社の神職だったので、十一月の新嘗祭（にいもあひ）がすむと間もなく、氏子さんの家を二軒二軒廻って新しいお札とお人形（ひとがた）を配って歩く。

お札は神宮大麻と八幡札、三宝荒神、お人形は暮の三十日に社殿で行なわれる大祓式（おほうしき）に間に合わせるものだ。

幼い頃の私は「このお札くばりが始まると」「ああ、今年もあと僅かになったなあ」と、なんだか残り惜しいような気持ちと、またそれとは逆に、早くお正月が来て欲しいという気持ちがないまぜになったことを憶えている。

あのころは、今と違って、早く年をとって一日も早くお姉さんになりたいという願望がきわめて強かった。お正月には綺麗な着物が着られるし、お年玉をもらえるし、学校は休みだし、大好きな百人一首（ひゃくにんしゅ）やトランプを思う存分楽しむことができた。

でも、そのお正月を迎える前に、お宮では前にも述べたお札くばりや、社殿や家の中の大掃除など、やるべきことが

多かった。

父はお宮のほうの準備がすべて完了すると、いよいよ自宅の神棚の一年のほこりを払い、古いお札を新しいお札に取り替えるのだ。この時の父の顔は厳肅で家人にまかせずすべて父自身の手でとりおこなわれた。

ただ、社務所にお札を受けに行くのはいつも私の役で、父は私の差し出す新しい神宮大麻をまず真中の扉の中におさめ、次に八幡さまのお札を向かって右側の扉の中に入れる。「神宮大麻は天照大御神さまだから、こうするのだよ」これも例年繰返される父の言葉だった。

新しい年を迎える前の、この行事はいよいよお正月が来るのだという快い緊張感を私に与えてくれた。「今年も一年間、無事に過ごさせていただき、有難うございました。」

父は古い神宮大麻や八幡札をちよつと押したくようにして私に渡す。私も父の真似をして、心の中で感謝の言葉をのべ、お焚きあげの場所へと持っていくのだ。

日本の総氏神さまである伊勢神宮の



神宮大麻のある暮らし

作家◎
平岩 弓枝

神宮大麻と、地元の氏神さまの神札にお守りいただいているという自覚は、こうして、幼い頃から私の心に深く刻みこまれ、また、それに対する感謝の気持ちを忘れたことはない。

あれからすでに半世紀以上の歳月が流れ、父はすでにこの世にないが、それとまったく同じことを夫や娘たちがおこなってきた。

その娘たちも最近それぞれ仕合せな家庭を持ち、果立って行った。

さいわい、家族同健康にめぐまれ、仕事も順調である。苦勞がまったく無いといえは嘘になるが、それは一つの試練であり、人間として成長するためには絶対に欠かせないものだと思うている。

その試練を無事に乗り越えさせていたただけるのもやはり神さまや御先祖さまがたのお蔭だ。

たぶん今年のお暮れの大掃除には、神宮大麻と氏神さまのお札を運ぶのは、また私の役になることだろう。

古いお札には感謝をのべ、新しいお札には来年の御加護を祈って、一生懸命に、そして一日二日を大切に、そしてこれからも生きて行きたいと思っている。



第6回 岡田神社書道展



● 会期
平成12年 7月24日(日)
7月30日(土)

● 表彰式
平成12年 7月29日(土)

● 総出品点数
於、岡田宮本殿 六八〇点

岡田宮賞
小2 水元えりか
小3 櫻井 加織
小4 櫻井 寛子
小3 久住 拓矢
小6 角 実怜
中1 林 康史
中1 櫻井 聖子
中2 原田 友絵

総代会長賞
小1 松本ともひろ
小2 山鹿 育恵
小3 今西 陽香
小4 武末 沙季
小5 近藤 彩紀
小6 下村理菜子
中1 神原 梨香
中2 神菊 真弓

夜空	夏空	夏空	夏空	夏空	夏空	夏空	夏空	夏空	夏空
青白	青白	青白	青白	青白	青白	青白	青白	青白	青白
松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂
白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂
青白	青白	青白	青白	青白	青白	青白	青白	青白	青白
松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂	松砂
白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂	白砂

- 特選
小1 田口 茂樹
小2 中山 愛夢
小3 つる山なな
小3 高橋 早紀
芳賀 智太
松本 小季
守水 彩夏
石田 貴裕
榎木園彩香
門司 朋子
山本 祥平
廣岡 美香
廣水 絢子
本田 祐
木下末沙都
櫻井 嗣也
藤原 光子
中山 卓海
山鹿 千紘
- 小4
小5
小6
- 山内 真紀
徳原 秀俊
松本安津子
西尾 彩
大曲 映希
新藤 由香
川内 宏美
高崎百合絵
尾崎 幸美
篠田 有美
越智 恵理
池田 香織
清水 希帆
江口 沙織
藤井香夏子
廣岡 美帆
工藤あずさ
岩 悠恵
吉村 遙
遠藤 聡子

- 特選
小6 原野 雅子
中山 史蘭
石田 真紀
鳥山 美咲
中1 谷 美澄子
高橋 梓
野口 久恵
白木 陽子
- 中2 西尾 沙織
友佑
出光 夏子
福山恵理華
佐々木綾那
青野 聖子
中山 陽馨
中3 松崎佐和子

心
逆境に泣く
泣いておん身の苦悩を理解した友よ
いまこそ同情ができる

泣いて人生の奥行が見えてきた友よ
奥行のある人間になろう
泣いて人間の価値を考えた友よ
おたがいに高くなるうそうして不減な仕事だけしよう
新しい逆境の体験を感謝する



郷土地名考

荒生田(あろうた)

七四〇年(天平十二)、筑紫に挙兵した藤原広嗣は板櫃川で政府軍と対陣。先鋒主力部隊は単人隊。単人は大和国家にとつてえみし同様まつろわぬもので、朝廷支配に対する抵抗をつづけていた。七二〇年には大隅国司を討つた単人の乱。

広嗣は単人を前衛に政府軍との決戦に臨んだ。ところがすでに麾下に寝返りをうつ部隊が現れ、士気は振るわない。そこへ対岸から勅使の声に広嗣は「朝廷には逆らわない。玄昉と真備を除くのみ」と答えた。

聞いた単人はがっかりだ。広嗣の私戦に使われてたまるかとわれ先に川を渡り投降してしまつた。

敗走した広嗣は松浦郡で捕まり斬首。その後、広嗣の怨霊談がひろがり、戦場の村にも荒武党明神を祀つて慰霊とした。荒武党が転化して荒生田になつたそうだ。

神社なぜ問答

(その30)



Q 神宮大麻のおまつりの仕方について教えてください。

A 神棚は明るく清らかなところで、口の高さよりは少し上におまつりします。お神札が南か東に向くのが一般的ですが、家の間取りによつてはおまつりするのがよいでしょう。神棚がない家庭では、とりあえずタンスや書棚の上を拭き清め白い紙を敷くなどしておまつりして戴くのもよいでしょう。

【お供え】

神棚には毎朝、お米、お塩、お水などをお供えして拝礼します。御神酒、季節の初物、お土産等は、その都度お供えし、感謝をこめて、のちほど頂戴します。

【お参りの作法】

神社の参拝作法と同様に、二拝(深くお辞儀を二回)二拍手(手を二回たたく)

一拝(深くお辞儀を一回)です。また、神棚は「家庭の中心」であり、常に「清浄」な状態を心掛けることが肝要です。特に新しい年を迎えるに当たっては、鄭重にお掃除をします。

神棚におさめる時には「神宮大麻」を包んでいる「薄紙」は取り除き、まじりましょう。「神宮大麻」はその奉製から頒布に至るまで「清浄」を第一に、それぞれのお祭りを重ねて、鄭重なお取り扱いがなされていきます。大麻の上包みとして、一体一体に施されている「花菱」紋様が透かし入りされている「薄紙」は、各家庭に「神宮大麻」が届くまでに汚れないようにするためのものです。

Q 忌中には新宮大麻をお受けできないのですか？

A 一般的に忌中は、神棚の前に白紙を張り、一定期間は神棚まつりを慎みます。その期間は地方によってそれぞれ慣習が異なり、全国一定のものではありません。

一所に生活(同居)している家族の方が亡くなられた場合は、垢十日祭(仏式では四十九日(七七))後、神社の神職に「清祓」をお願いして平常の生活に戻り、神棚のまつりも再開します。

その間に、「神宮大麻」や「氏神さまのお神札」が頒布される場合は、忌明けまで神社にお預けして、忌明けからおまつりしましょう。

岡田宮と厄除やくよけ

厄年と称し、古くからその年は慎むべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十一才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、人生の折り返しだからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎む年であるとされています。厄年の方は、障りのある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。

それが「厄はらい」です。厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをうけましよう。

北九州の古社である岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。皆様方おそろいで御参拝下さいませ。様御案内申し上げます。

平成十三年の厄年

厄年(男)

二十四才	前厄	昭和五十三年生
二十五才	大厄	五十二年生
二十六才	後厄	五十一年生
四十一才	前厄	三十六年生
四十二才	大厄	三十五年生
四十三才	後厄	三十四年生
六十才	前厄	十七年生
六十一才	大厄	十六年生
六十二才	後厄	十五年生

厄年(女)

十八才	前厄	昭和五十九年生
十九才	大厄	五十八年生
二十才	後厄	五十七年生
三十二才	前厄	昭和四十五年生
三十三才	大厄	四十四年生
三十四才	後厄	四十三年生
三十六才	前厄	四十一年生
三十七才	大厄	四十年生
三十八才	後厄	三十九年生

・厄年大祭 二月節分日

※ 年齢はかぞえ年です。

年末年始の行事案内

● 大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を払い、清々しい心となつて各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

形代(表) かしろ
かた

岡田宮大祓式 七月十九日午後六時
十二月三十一日午後二時

大祓式は、半年間の罪穢を払い、清々しい心となつて各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

〒810-0801 岡田宮 岡田宮社務所 TEL:084-922-1111 FAX:084-922-1112

● 歳日祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願いする神事。午前0時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。



● 開運福引き 一月一日(三日)

一枚五百円でハズレなし。一等はカラーTV、羽毛ぶとなどが当たります。新年の運だめしにどうぞ。

昨年(の)一等(敬称略)

- 八幡西区菅原町 川原えり子
- 八幡西区岡田町 加来 真弓
- 八幡西区的場町 矢野 勝也
- 八幡西区上の原 大庭 直彦
- 熊本県熊本市 井芹俱一郎

● 特別祈願祭 一月一日(七日)

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

● 成人奉告祭 一月八日(成人の日)

新成人のお祝いをします。

● どんどん焼祭 一月十四日(日)

古くなつた、縄、門松等を焼納する神事。

地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

平成十三年

算賀の年祝

日本国には古い時代から人の寿命を加へゆく年の区切り区切りを慶び祝う風習があります。

この祝いを年賀とも算賀ともいいます。

どうぞご家族そろつて岡田宮にご参拝され、今までの無事息災を神様に感謝すると共に更に向後の長寿安泰をお祈り下さい。

※日取は誕生日又は早めにされて下さい。

還暦	六十一才	昭和	十六年生
古希	七十才	昭和	七年生
喜寿	七十七才	大正	十四年生
傘寿	八十才	大正	十一年生
米寿	八十八才	大正	三年生
卒寿	九十才	明治	四十五年生
白寿	九十九才	明治	三十六年生

※年齢はかぞえ年です。

楽しい雰囲気・明るいスタジオ

(株) 有川 写真館

岡田宮内にスタジオ完備
宮参り、七五三など
撮影時、衣装無料でお貸ししています。
フリーダイヤル 0120-62-2080

写真館

PePe

北九州プリンスホテル ペペ2F
インドアプール前にオープン
各種衣装取りそろえております。
フリーダイヤル 0120-620-753